鉄砲洲神社詩吟　素読論語解説
（平成 28 年 9 月 9 日）

衛霊公 第十五

【二六】子曰く、巧言は徳を乱る。小は忍びざれば、則ち大謀を乱る。

巧言はよくいえば、話し上手。演説が上手だとか、対話が上手だとか、とにかく話し方が上手な人は意外に徳性に問題があることが多い。相手が問題あるなと思っても小さなものだったら大目に見て我慢したほうが良い。そうしないと大きな謀（はかりごと）が上手くいかない。

大きな謀で思い出したのが、四十七士です。大石内蔵助は小さなことは我慢してお家再興を目指したけれど、最終的には再興ではなくお殿様の敵を討つというところに収斂していきました。大きな目的を持っている場合は小さなものは我慢したほうが良いですねとここは読めばよいと思います。

孔子は相手を見て話しますから、同じ科白でもまるで意味が違います。誰に対してか、状況はどうか、いつごろかで違います。そこら辺を良く見ている必要があります。あと年齢によって違います。

口先だけの人は氣をつけなさい。それは思いやりではなく詐欺っぽいと解釈している。国は嘘ばかりついていけないねと擬人化して眺めると、何度も申し上げる話ですが、年金や源泉徴収は国が嘘をついた極めつけみたいなものです。戦費が足りないから時限立法で戦争が終わったら、このような税金の徴収はしないから、ほんの間だけ皆さん我慢してとやりだしたのが源泉徴収です。厚生年金にいたっては、もっと酷くて最初から嘘だということが明快になっています。昭和 22 年に男性の寿命が 50 歳を越えました。その前年に制度が作られ、60 歳になったら年金にプラスしてお返しをしますからと始めたものです。

当時、制度を決めた時の課長が話したものが記録に残っています。男性は 50 歳まで生きないから、この金は国民に払う必要がないので、じゃんじゃん使えと。何でもよいから使い方を考えて使いなさいという記録があります。年金のディスカッションをする時は必ず出てきます。あれは国家が詐欺をしている。民間の保険機関が同じことをやろうとすると国は絶対認めない。もしやったら御用という仕組みです。国がやることについて眉唾で、きちんと見てないといけない。

今の日銀がやっているインフレターゲットは進まないものだから、デフレ退治なんていっているけれど、思うようにいかない。今やっているのはマイナス金利をもうちょっと増やしましょうとアドバルーンをあげています。国債の買い増しも、今の金額の倍まで増や

すということを、ぽつぽつとしています。そのうちひっくり返ったときのハイパーインフレは凄いのが出てくるでしょうね。

去年、金融庁長官が変わって方針を変えました。今までは融資実績、お金をいくら貸したかによって銀行を評価していましたが、今は銀行がお金を貸した先の取引先や顧客がよくなったかどうかを調べるというように金融庁がやり方を変えました。銀行が査定する時に顧客に対して、アドバイスや提案書をどれだけしたか。お客のところにどれだけ通ったかと、金融庁が銀行の評価の仕方を変えました。とても良いことです。良いことですけれど、銀行はいまだに金貸しに走って金利競争をしていますから、そんな簡単に変わりはしない。変わるまでにはだいぶ淘汰されると思います。

今、中小零細のうちの零細は自主廃業をなかなかさせてくれない。ずっと廃業をしたいと言いながら延命をさせられている状況です。倒産はさせないで、無理やりチューブをつけて延命をさせています。それが今の中小零細です。中小零細はチューブだらけです。自分で外す氣力のあるところは自主廃業です。安倍さんが好景氣だというために倒産の数がこれだけ減ったと数字を操作するために潰さないだけですから。日銀総裁は安倍さんと共倒れになるまでは、日銀はマイナス金利続けますと標榜しています。日本はひっくり返っても大変です。そういう読み方を論語の中から取りましょう。

最近、小池劇場が面白いと思っています。小池百合子さんは都知事になって、その先の内閣総理大臣がみえている。内閣総理大臣になるために都知事がステップになって、いろいろ細かいことで敵をつくりだし人を挑発して乗っけて、自分の思いとおりに動かして小池劇場を展開している。そうすると先々のものがあるから、小池さんに対して文句を言ってくる人が小さなものは多めにみてしまえ。自分が我慢すればよいと。我慢しているのだよというのを目に見えてわかるようにやっているなと最近感じます。特に森元総理とのやり取りはテレビを入れて、私はこれだけ我慢しているのです。森さんのほうが人物は小さいじゃないのというパフォーマンスをしていて、それが今のところ当っています。話し上手はパフォーマンスが上手だから特性になる。都知事がうまくいくかどうか、そのあとの総理も視界にはいるのではないかと思っています。でもあまりパフォーマンスをやりすぎると小池さんは落ちていくのではないのかなという氣がします。小池さんは昔の言葉をよく味わう方がよかろうと感じます。

【二七】子曰く、衆　之を悪むも必ず察し、衆　之を好するも必ず察す。

孔子は、大衆が嫌がったとしても、本当かどうかは調べた方がよい。大衆が良いなと思っても徹底的に観察をし、心の中まで察することをしていかないと、人物判断を間違えて

しまう。大衆の好むこと憎むことは、まるであてにはならないと孔子が言っています。

最近の人でいえば、渡部昇一や西部邁は、大衆が良いというものの真実は、だいたい反対である。大衆が悪いと烙印をおしたものを調べると、正しかったとなる。歴史的にみる習慣をつけないと間違える。

大衆に迎合するのは、よくないと考えればよかろうと思います。

【二八】子曰く、人　能く道を弘む。道　人を弘むるに非ず。

武道でも良いし華道でも書道でも、とにかく「道」といわれるものは、その創業者や中興の祖、そういう人間が何々道を世の中に広げていく。

例えば、詩吟でいえば吟道です。詩吟のひとつの流派である緑村吟詠があるから、世の中に吟道が広がっていく。その吟道を練習している人達は成長すると考えるべきではないでしょうか。緑村先生が亡くなると、その吟道が発展していくかといえば、なかなかそうはいかない。そのあとを継いだ人が素晴らしい人物であれば、さらに成長発展をするだろうけれども、その中興の祖みたいな人が亡くなると普通は終わってしまう。緑村吟詠会も緑村先生が作られ、胆道先生が発展させ、その次に続く人が出なければ、お終いにならなくても細々と続いていくであろうというふうに感じます。誰かが出ないと、なかなか先には進まないだろうと感じます。

何々道といわれるものは、人物によって「道」は発展成長するけれども、その人物が亡くなると、終了であると思ってよかろうとここは捉えるべきだと思います。

政治でいけば、日本の政治は安倍さんが、たまたまよく続いている。今、日本の内閣総理大臣の持つ権限というものが急激に拡大膨張していますので、安倍さんが自分の思い通りの権限を内閣総理大臣にすべてつけることができたのならば、日本はそのうちヒトラーみたいな人間がその仕組みにあわせて出てくるだろうと思います。今回、北朝鮮が核実験をまたやりましたから、第三次世界大戦とあとでいわれるようなものは、たぶん導火線に火がついていると思うのです。導火線が今長いから、ちょろちょろと燃えて少しずつ進んでいるところなんで、今みなここにいる方が生きている間に、導火線に火がついたものがもしかしたら爆発するのではないかなという氣がします。それを止める人物が現れるかどうか、仕組みが行き過ぎてしまうと危ないなと感じがします。

「**人　能く道を弘む。道　人を弘むるに非ず**」は、そうとう深いところまで考えて解釈した方がよいと思っています。